

(仮称) 駒門スマートインターチェンジ地区協議会

設立趣意書

御殿場市は、静岡県東部に位置し、富士山麓の美しい自然に恵まれた緑豊かな高原都市で、富士山、富士五湖、愛鷹山、箱根、伊豆といった我が国屈指の観光ゾーンのほぼ中央部に位置しております。

御殿場インターチェンジは、昭和44年の東名高速道路開通時から利用され御殿場市の産業振興に大きく寄与され、昭和59年には、御殿場東料金所も開設されました。

現在、市南西部に広がる工業用途地域周辺は、本市の工業生産を支える地域として位置付けられておりますが、主な輸送経路である御殿場インターチェンジ及び裾野インターチェンジまでに主要渋滞区間があり、物流の効率化において不便をきたしております。

また、この地域周辺においては、既存の工業団地に加え内陸フロンティア推進区域である板妻南工業団地を控え、企業誘致において高速道路との良好なアクセスが望まれています。

さらに、観光シーズンにおいては、御殿場インターチェンジ及び裾野インターチェンジ周辺道路の渋滞が顕著となっており、交通の分散を図る必要があります。

本スマートインターチェンジ設置は、高速道路とのアクセス性、利便性等の向上により地域産業の活性化、観光振興の促進、大規模災害時及び緊急搬送時の迅速な対応等に大きく寄与するものと期待します。

このため、国土交通省、静岡県、静岡県警察、中日本高速道路株式会社及び御殿場市が連携して、スマートインターチェンジの設置に向け必要な検討、調整を行い、供用後も継続して、社会便益、安全性、利用交通量、管理・運営形態等を定期的にフォローアップし、必要に応じ見直す場として、「(仮称) 駒門スマートインターチェンジ地区協議会」を設立するものです。

平成28年5月18日

御殿場市長 若林 洋平